

2 各府県市による実践報告

②「『ひょうご不登校対策事業』について」

兵庫県教育委員会 義務教育課
主任指導主事 榎並 俊之

兵庫県では、不登校児童生徒はこの5年で、小学校で約2倍、中学校で約1.5倍となっている。今年度はコロナ禍における不登校支援の方向性について検討を始めた。県内10の小学校、14の中学校の児童生徒や保護者にアンケートによる協力を依頼。不登校の未然防止に向けた効果的な取り組みや、不登校児童生徒への支援の在り方の2点について検討を行った。アンケート内容は①臨時休業だったときについて、②学校再開後、③現在についての3点で行った。アンケート分析の視点は、欠席日数の違いによる児童生徒の回答の状況、学校の不登校支援の取り組みと実施上の課題、児童生徒と保護者の回答状況の比較の3点で行った。

○調査結果と分析（案）

・コロナ禍における現状と課題

- 課題① 家庭生活に関連する課題→欠席日数の多い児童生徒（年間20日以上）の生活習慣の切り替え。
- 課題② 友だちの関わりに関連する課題→欠席日数の多い児童生徒の人への関わりに対する数値の低さ。
- 課題③ 学習に関連する課題→欠席日数の多い児童生徒は、友だちとの関係以上に、学習への不安を感じている傾向が強い。
- 課題④ 登校に関連する課題→欠席日数の多い児童生徒ほど、学校に行くことを楽しいと感じていない。が、分散登校（少人数・短時間）に良さ感じている。
- 課題⑤ 学校の取り組みに関する課題→欠席日数の多い児童生徒は、オンラインでの勉強に良さを感じていない可能性がある。各学校・家庭のオンライン環境と活用方法が課題。
- 課題⑥ 保護者の状況からの課題→ゲームの使用時間や友達関係において、児童生徒や保護者との間に認識のずれが見られる。

○今後の不登校支援の取り組みに向けた検討

- ・魅力ある学校づくりに向けた取り組みのさらなる推進。
- ・学習支援の工夫→個に応じた支援。
- ・個に応じた居場所作り、絆づくりの工夫。
- ・保護者との連携と理解啓発。
- ・ICTの効果的な活用の研究。 など

補足として

- ・中学校1年生の現状→集会や行事などで先輩の姿を見る機会が減少。学級づくり、友だちづくりの期間がなかった。いじめ、不登校増加が懸念される。